

よし みね がわ

善峰川

所在地・・・ 京都府京都市西京区大原野地区

延長・・・ 延長3.7km(うち、市施工区間2.1km)

実施主体・・・ 京都市建設局水と緑環境部河川整備課

問合せ先・・・ 【住所】京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地
【TEL】075-222-3591

善峰川

対象地の概要・・・「多自然川づくり」を考慮した河川改修事業を実施し、多様な生物の生育を促進する護岸及び河床構造を採用し、良好な環境の形成とともに、緩勾配護岸の設置により市民等が身近に水と触れ合うことが出来る空間となっている。

事業への取組みのきっかけ

善峰川は、自然豊かな環境を育んでおり、多種多様な動植物が生息・生育している。このような環境の中で河川整備を行うにあたり、安全度の向上とともに、生物の持続的な生息・生育に配慮した良好な水辺空間を創出するため、「多自然川づくり」を行っている。

整備の概要

整備実施期間・・・平成13年～平成23年度(2001年～2011年度)

①「多自然型護岸の整備」に向けた整備内容

善峰川の多自然型護岸の整備は、以下の整備を行った。

《水辺の植物に配慮した構造》

●水際の植生を促すため、多孔質な護岸(アンカー式空石積み護岸)を採用した。

《その他、多自然川づくりの整備》

●河川の働きを活かした多様な自然環境を確保するため、ショートカットを用いる定規断面での河川改修計画を見直し、現況河川法線を極力変更しない河道とした。

●従来の直壁型落差工を河川改修時に緩傾斜落差工としたことで、河川の縦断方向の連続性を確保し、自然河床の保全に努めた。

●緩勾配河岸(3～7割)を設けることにより、定規断面での改修を避け、水辺へのアクセスを高めた。

② 整備時の協働者との関わり

—

③ 整備時の留意点

*当初計画では、ショートカットを用いる河道計画であるが、河川環境の多様性を確保するための計画の見直しが必要であった。

*環境調査結果では、魚類・底生動物が数多く確認されているため、自然河床の保全が課題であった。

*整備前には、直壁型の落差工(落差1m×2基)が設置されており、上下流の連続性に配慮した整備を行う必要があった。



多孔質な護岸(アンカー式空石積み護岸)

事業効果

●善峰川では、整備後に生物に関する状況調査を行っておらず、生物の個体数の増減や新たに確認できるようになった生物等については不明である。

●しかし、当初目的としていた水際の植生が見られ、河道内には、蛇行したみお筋が形成されていることから、生物の生息、生育環境に配慮した河川改修ができたのではないかと考えている。



河道内に形成された蛇行したみお筋

維持管理の概要

④「多自然型護岸の整備」に向けた維持管理内容

河川敷地内の草刈り、塵芥処理、河道の堆積土砂の漂没を行っている。

⑤ 維持管理時の協働者との関わり

—

⑥ 維持管理時の留意点

*河川敷地内の草刈り、漂没等の実施にあたっては、生物の生息、生育環境に影響が出ない時期に行うなどの配慮をしている。



善峰川の空中写真



直壁型落差工から緩傾斜落差工への河川改修



河道の堆積土砂の漂没の様子



河川風景

備考

現在の課題

維持管理に係る費用及び体制の確保が現在の課題である。

今後の展望

施工後の経過状況を観測し、当初の目的がどのように達せられたかを検証して、今後の改修区間での実施計画に反映していく。